

JSP

ニュース

第50期 中間報告書 平成19年4月1日～平成19年9月30日

2007年 冬

No.61

証券コード：7942



の達成に向けて いきます。

海外事業は、アジアで中国を中心に需要が引き続き拡大し、米国では製品利用の多様化が進んだほか、欧州では需要回復が顕在化するなど、総じて好調に推移しました。

この結果、当中間期の連結売上高は、49,248百万円と前年同期に比べ3.0%増加しました。連結経常利益は2,783百万円と前年同期に比べ37.0%増加し、連結純利益は1,668百万円となり、前年同期比20.3%の増加となりました。

通期の見通し

平成19年度は、平成21年3月期を最終年度とする中期経営計画「REMAKE 21」の2年目に当たります。当計画は「創造的行動力による社会への貢献」を経営理念として、技術開発力を戦略の中心に位置づけています。新規事業



外張断熱工法（ミラフォーム）



ヨーロッパで展開中の家具
（ピーブロック/ARPRO）

の創出と既存製品の新たな用途開発を実現し、業界のリーディングカンパニーとして市場対応型事業展開と経営効率化を加速させることにより、より高収益な集団を目指します。

本年度下期を見通しますと、総じて国内外とも上期と同様の状況が続くと予想されます。原油、原材料市況は依然高い領域にとどまるものと見られ、引き続き製品価格の是正に注力するとともに、新製品開発等コスト削減による競争力・収益力強化を図ってまいります。

通期連結売上高は99,000百万円（対前年比3.7%増）、経常利益は5,100百万円（前年比23.8%増）を確保する見込みです。

なお、当中間期において配当金は1株当たり6円とさせていただきます。年間配当金は、期末配当金を含め12円とさせていただきます。

株主の皆様には、今後とも変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



カーエアコン用空調ダクト
（スーパーフォーム）

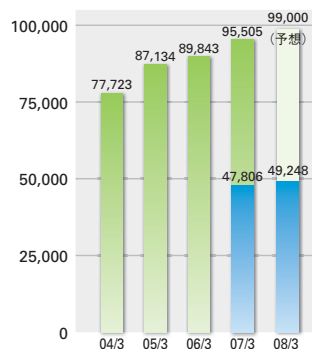


保温・保冷容器（スチロディア）

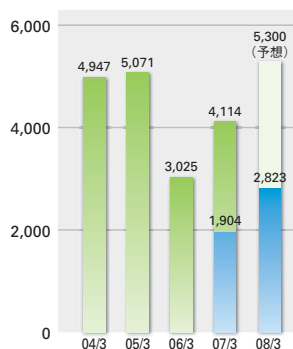
井 上 六 郎

(単位:百万円)	2004/3	2005/3	2006/3	2006/9	2007/3	2007/9
売上高	77,723	87,134	89,843	47,806	95,505	49,248
営業利益	4,947	5,071	3,025	1,904	4,114	2,823
経常利益	4,406	4,552	2,868	2,031	4,119	2,783
当期(中間)純利益	2,372	2,375	1,525	1,387	2,357	1,668
純資産	31,423	36,963	40,058	44,258	45,989	48,692
総資産	78,631	83,980	88,039	96,447	95,178	97,595
(単位:%)						
売上高営業利益率	6.4	5.8	3.4	4.0	4.3	5.7
売上高経常利益率	5.7	5.2	3.2	4.3	4.3	5.7
売上高当期(中間)純利益率	3.1	2.7	1.7	2.9	2.5	3.4
(単位:円)						
1株当たり当期(中間)純利益	88.53	83.17	49.71	44.64	75.76	53.35
1株当たり純資産	1,170.15	1,214.44	1,296.15	1,325.97	1,376.68	1,442.86
(単位:百万円)						
設備投資	4,119	6,113	6,640	3,933	7,923	3,011
減価償却費	4,747	4,837	4,656	2,213	4,566	2,388

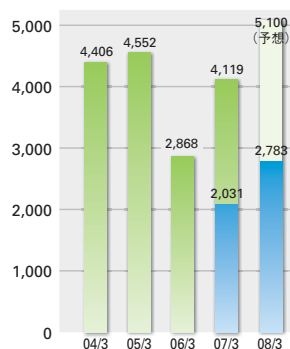
売上高 (百万円)



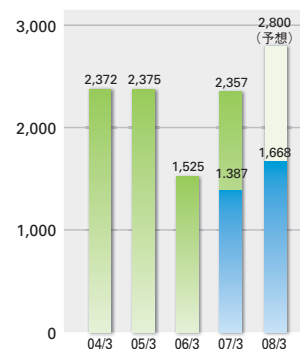
営業利益 (百万円)



経常利益 (百万円)



当期(中間)純利益 (百万円)



■ 中間期 ■ 通期

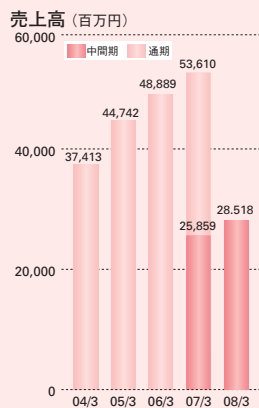
ビーズ事業

ビーズ事業は、当社売上高の57.9%を占めています。

発泡ポリプロピレン「ピーブロック」は、衝撃緩衝用バンパー芯材や内装材等の自動車部品のほか、IT製品輸送用通い函、家電製品用緩衝材、競技用グラウンド基礎緩衝材等に幅広く用いられており、日本を始めアメリカ、ヨーロッパ、アジアの各地域において売上高は前年同期を上回りました。また魚箱や包装材、建設土木用資材に用いられる発泡性ポリスチレン「スチロダイア」については、原材料価格値上げに対する製品価格は正が進みました。

この結果、ビーズ事業の売上高は28,518百万円(前年同期比10.3%増)、営業利益は2,954百万円(同56.3%増)となりました。

同事業の売上高の推移



ピーブロック (IT・家電製品緩衝材)



スチロダイア (保温・保冷容器)

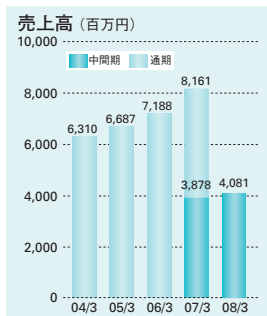
ボード事業

ボード事業は、当社売上高の8.3%を占めています。

発泡ポリスチレン押出ボードの断熱材「ミラフォーム」は、平成19年6月の建築基準法改正による新規住宅着工件数減少の影響により販売数量は減少しましたが、売上高は製品販売単価の引上げ効果もあり前年同期を上回りました。また、発泡ポリエチレン押出ボードの「ミラプランク」の売上高はトラック等の積載品を保護するための緩衝材や、家電・自動車用部品の通い函向けを中心に前年同期を上回りました。

この結果、ボード事業の売上高は4,081百万円(前年同期比5.3%増)、営業利益は268百万円(同34.2%増)となりました。

同事業の売上高の推移



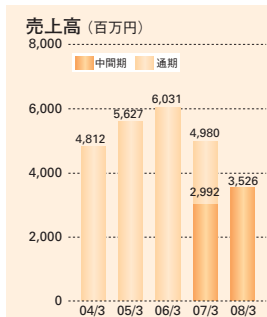
その他事業

その他事業は、当社売上高の7.2%を占めています。

自動車用空調ダクトの「スーパーフォーム」は、軽量性、断熱性が評価され順調に売上を伸ばしました。ユニットバス天井材の「スーパーロー」は、住宅着工件数が減少した影響もあり売上高は前年同期を下回りました。また一般包材事業の売上高は前年同期を上回り、プラスチックリサイクル機器事業の売上高は前年同期並みでした。

この結果、売上高は3,526百万円(前年同期比17.8%増)、営業利益は36百万円(同33.7%減)となりました。

同事業の売上高の推移



■中間連結損益計算書

(単位:百万円)

	当中間期 2007年4月1日から 2007年9月30日まで	前中間期 2006年4月1日から 2006年9月30日まで	前期比増減額
売上高	49,248	47,806	1,441
売上原価	36,161	35,261	899
売上総利益	13,087	12,545	541
販売費及び一般管理費	10,264	10,641	△377
営業利益	2,823	1,904	918
営業外収益	369	464	△94
営業外費用	409	336	72
経常利益	2,783	2,031	751
特別利益	59	1,052	△993
特別損失	73	524	△450
税金等調整前中間純利益	2,768	2,559	208
法人税、住民税及び事業税	649	856	△207
過年度法人税等戻入額	△64	—	△64
法人税等調整額	133	△54	188
少数株主利益	381	370	10
中間純利益	1,668	1,387	281

注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

■中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	当中間期 2007年4月1日から 2007年9月30日まで	前中間期 2006年4月1日から 2006年9月30日まで	前期比増減額
営業活動による キャッシュ・フロー	3,734	2,614	1,119
投資活動による キャッシュ・フロー	△3,368	△2,916	△452
財務活動による キャッシュ・フロー	△86	1,106	△1,193
現金及び 現金同等物期末残高	5,495	6,449	△953

注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

④ 売上高

当中間期の売上高は、日本を始めアメリカ、ヨーロッパ、アジアの各地域におけるピーズ事業の売上増により、前年同期比3.0%増の49,248百万円となりました。

⑤ 営業利益・経常利益

物流コストの削減や高付加価値製品の早期事業化や収益性の高い海外事業への積極展開により、営業利益は前年同期比48.3%増の2,823百万円となり、経常利益は、前年同期比37.0%増の2,783百万円となりました。

⑥ 中間純利益

中間純利益は、前年同期比20.3%増の1,668百万円となりました。

■中間連結株主資本等変動計算書

(単位:百万円)

当中間連結会計期間	株主資本					評価・換算差額等			少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
2007年3月31日残高	10,076	13,352	18,909	△39	42,298	321	365	686	3,003	45,989
当中間期中の変動額										
新株の発行	35	35			70					70
剰余金の配当			△187		△187					△187
中間純利益			1,668		1,668					1,668
自己株式の取得				△2	△2					△2
株主資本以外の項目の当中間期中の変動額(純額)						△74	712	637	517	1,154
当中間期中の変動額合計	35	35	1,481	△2	1,548	△74	712	637	517	2,703
2007年9月30日残高	10,111	13,388	20,390	△42	43,847	247	1,077	1,324	3,520	48,692

注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

アンケートへのご協力、ありがとうございました。

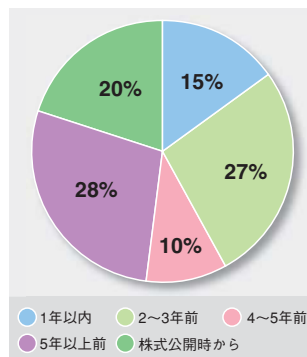
非常に多くの皆様からご返信をいただき、ありがとうございました。

集計後に届いたものを含めると833名、総株主に占める比率で約36%という結果となりました。

数多くの励ましやご意見は、社長の井上をはじめ経営陣の参考とさせていただきます。

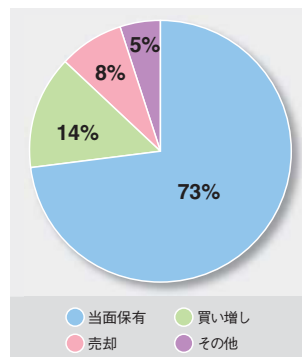
改めて感謝を申し上げます。

当社株式の購入時期



前回より中・長期保有の株主様比率が高くなっています。株価変動の影響もあったと考えますが、新規株主様獲得により一層の活動を続けてまいります。

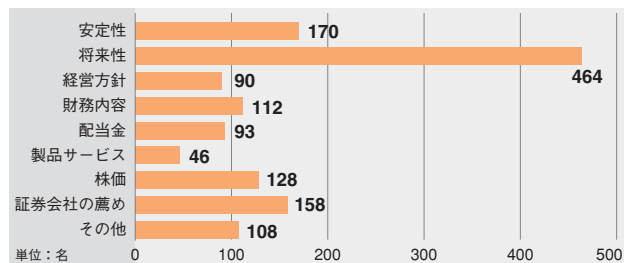
当社株式に対する今後の方針



安定保有に加え、買い増しをお考えいただいている株主様が増えていることに感謝申し上げます。

株主還元策のご要望も多くいただいておりますので、前向きに検討をさせていただき実現に努力いたします。

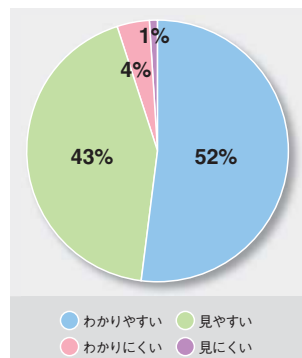
当社株式の購入理由



依然として、圧倒的に当社の将来性に期待していただいています。

事業の確実なる拡大と収益の確保、そして株主様への還元をより意識した活動を実施いたします。

JSPニュースへの印象



前回よりも良いご評価をいただき、大変嬉しく思っております。

今後も、目を通すことを楽しみに思っただけの紙面作りを心掛けてまいります。

9

▶ 資本金の変更 (平成19年9月30日現在)

資本金	101億11百万円	発行済株式総数	31,367,473株
前回報告 (平成19年3月末)	100億76百万円 (35百万円増加)	変更理由	ストックオプションの行使

10

▶ 「業績予想の修正に関するお知らせ」を発表

10月9日、業績の動向を踏まえ、平成19年4月27日に公表した平成20年3月期の中間期及び通期業績予想の修正を発表いたしました。

1. 平成20年3月期 個別業績予想数値の修正 (平成19年4月1日～平成20年3月31日)

個別 (単位:百万円)	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	中間	通期	中間	通期	中間	通期	中間	通期
前回発表予想	27,600	55,900	270	600	330	1,500	180	800
今回発表予想	27,500	55,900	50	400	100	1,200	70	700
参考:前期実績 (平成19年3月期)	25,580	52,707	△378	△197	△298	610	△13	226

2. 平成20年3月期 連結業績予想数値の修正 (平成19年4月1日～平成20年3月31日)

連結 (単位:百万円)	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	中間	通期	中間	通期	中間	通期	中間	通期
前回発表予想	49,100	99,000	2,670	5,300	2,600	5,100	1,520	2,800
今回発表予想	49,150	99,000	2,750	5,300	2,700	5,100	1,600	2,800
参考:前期実績 (平成19年3月期)	47,806	95,505	1,904	4,114	2,031	4,119	1,387	2,357

※連結の通期業績予想数値は、前回発表したままであり、修正していません。

3. 修正の理由

世界的な原油高、ナフサ高の継続で、当連結会計年度に入って2度にわたる当社発泡樹脂製品の主原料、副資材等の価格上昇により、個別利益は前回予想を下回る見込に、一方、連結利益は海外事業が好調であり中間期の利益は前回予想を上回る見込となったため。

▶ 鹿沼物流センター 竣工式開催

10月19日、建設を進めていました鹿沼物流センターの竣工式が行われました。

▶ JSP四日市第一工場 「高圧ガス優良製造所」として経済産業大臣より表彰

10月26日、高圧ガスの保安対策に貢献したとして、当社・四日市第一工場が経済産業大臣表彰を受けました。優良製造所として表彰を受けたのは当社を含め、大手飲料メーカーなど17社です。

▶ 平成20年3月期 中間決算発表

10月30日、東京証券取引所に平成20年3月期中間決算を報告し、対外発表いたしました。

11

▶ 鹿沼物流センター本稼動

11月1日より鹿沼物流センターが本格業務を開始いたしました。

表紙の写真

Cover Photo

「カッパドキアの奇景」

トルコ ギョレメ国立公園 世界遺産



撮影・文
清水 準一（写真家）

トルコには世界遺産が9ヵ所あります。歴史的遺跡の宝庫と言われる割には少ないのですが、その多彩さは類を見ません。「トロイ遺跡」、イスタンブルにあるトルコ最大のモスク「アヤソフィア聖堂」^{※注}など、ペルシア時代、ヘレニズム時代、ローマ帝国・ビザンティン帝国時代（東ローマ時代）、セルジューク・トルコ時代、十字軍時代、オスマントルコ時代と列挙しますと、世界史が圧縮されている感じがします。

しかし国民感情のせいからか、現在のベルリン観光の目玉として「ベルガモン博物館」に展示されている「ゼウスの大祭壇」が発掘された地・ベルガマは、世界遺産ではありません。恐らく「ゼウスの大祭壇」がドイツ人により発見され、船でそっくりベルリンに運ばれているために、トルコ国民の中に「遺跡を持ち出された」と言う感が強いのかもかもしれません。

カッパドキアの最大の特徴は、自然の創造した奇景と、トルコの歴史の変遷を象徴している文化とが複合した遺産という点です。

まず、奇景誕生のプロセスの概略を説明しますと、6000万年ほど前のタウロス山脈の隆起に始まり、噴火により堆積された火山灰が柔らかい凝灰岩層となり、この岩層に雨水や風雪が侵食して形成されたそうです。

この不毛の僻地に最初に入植したのは、ローマ人の弾圧を避けて逃げて

きた初期のキリスト教徒（313年公認以前）で、柔らかな地層という点に着目したことから地下都市の歴史が始まったようです。さらに、7世紀になるとアラブの攻撃を避けてこの地に逃げ込んだキリスト教徒が、現在観光資源となっている迷路のような多階層の地下都市を造りました。（地下4層まで発掘されていますがまだその下があるそうです。）

カッパドキアは東西20km、南北40kmという広大な地域で、高級ホテルの多いユルギュッブ、県都ネヴシェヒル、洞窟ホテルの多いギョレメなどこの地域の全貌を知るには最低2日はかかるようです。小生はイスタンブルから夜行寝台でアンカラ行き、そこからバスで南下し、ギョレメの谷に入りました。著名な観光スポットとしては奇岩要塞のあるオルタヒサル、最高の展望を誇るウチヒサルなどがありますが、これらの地域は訪れていないのでご紹介できず残念です。

※注：「アヤソフィア聖堂」

1985年、「イスタンブル歴史地域」の一部として世界文化遺産に登録される。537年建造。当初はキリスト教最大の規模を誇っていた大聖堂。オスマントルコの征服によりモスクに改造された。その後イスラム教のモスクの原型となった。1616年に建てられたブルー・モスクは明らかにアヤソフィアに影響を受けて建造された。